

平成25年12月16日

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 御中

独立行政法人日本スポーツ振興センター

理事長 河野一郎

平成25年11月25日付で貴会よりありました「新国立競技場建設再考の要望書」については、同日、事務方より報告があり、内容を拝見させていただいたところです。

このたびは、この要望書にありました本センターへの質問事項「2」「3」「6」及び「7」について下記のとおり、ご質問とあわせお答えさせていただきますので、ご確認ください。

### 記

#### ●貴会ご質問事項の2

最優秀案は1300億円というコンクールで与えられた条件をクリアしていません。「1964年の東京オリンピックの遺産を活用しコンパクトな五輪を目指す」という公約と矛盾しないでしょうか？縮小の予定もあるそうですが、どの部分を縮小するのか、1300億円の予算が1800億円に膨らむそうですが、その内訳をご説明ください。

#### ◆本センターお答

コンパクトな五輪を目指すという公約については、立候補ファイルにも記載されているとおり、東京圏の33競技会場のうち28会場は、選手村から半径8km以内に設置され、非常にコンパクトな計画になっており、その計画に変更はないと聞いています。

また、新国立競技場では、国際デザイン競技募集要項で示した29万m<sup>2</sup>の規模から、コスト及び維持管理費等を考慮しつつ、以下の見直しポイント等について検証を進めてきた結果、コンパクト化を図ることが可能であることが検証されたため、合計約22万m<sup>2</sup>を目安に基本設計を行うこととしています。

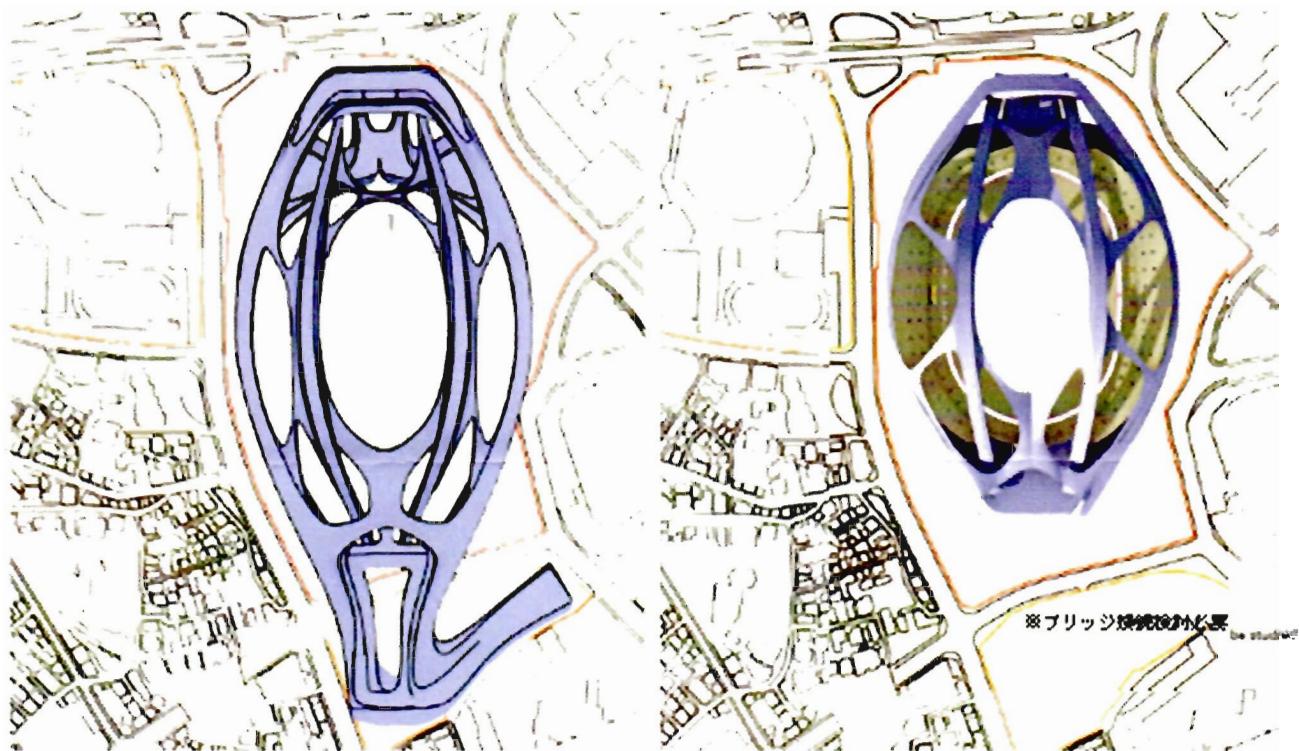
#### ○規模の見直しのポイント

- ・各競技間の必要諸室の共用化
- ・大規模大会時の必要諸室の仮設対応化
- ・秩父宮スポーツ博物館の縮小
- ・レストラン等商業施設の縮小
- ・ホスピタリティ専用工エリアの縮小
- ・駐車場台数の削減（約900台から662台、削減後の台数は、東京都駐車場条例等関連法規に定められている台数と同程度）

## ○デザイン案のコンパクト化

【2013年3月時点案】

【現在案】



建設費について現時点では、本体工事費として1,413億円、周辺整備工事として372億円と見積もっており、その内訳は次のとおりです。

(内訳)

1 本体整備	1,413億円
・躯体等	960億円
・開閉式屋根	148億円
・可動席	152億円
・観客席空調	92億円
・環境対策 (LED等)	61億円
2 周辺整備	372億円

### 貴会質問事項の3

11ヘクタールの土地に29万平米という余地のない状態で、災害時の8万人の観客を誘導し、またパラリンピックの際の車椅子の方などの入退場、災害時の誘導計画を御示しください。

### ◆本センターのお答

現在、基本設計に着手する前段階として行っている「フレームワーク設計」の中で、規模については約22万m<sup>2</sup>を目安とし、コストなどを検証している段階であり、政府部内の全体工事費の調整

が整った後に基本設計に移行することとしています。そのため、具体的な入退場、災害時の誘導避難計画については、基本設計の中で検討していくこととなりますが、設計に当たっては、次のことを考慮していくこととしています。

新国立競技場は、オリンピック・パラリンピック大会開催時など大規模国際競技大会開催時には最大8万人が集まる施設であり、非常時における避難については十分に検討する必要があると考えています。具体的な内容については、今後の基本・実施設計段階において詳細に検討することとしています。特に、観客席から避難階へバリアフリーにも配慮した、安全かつスムーズに一時避難できる動線などの検証や、一時避難先となる場所（人だまり空間）の適切な確保等を、各種法規制や国内外事例を参考しながら、検討していくこととしています。

一方、非常時・災害時には地域住民の避難場所としての役割も期待されることから、その安全性の確保は極めて重要であると捉えています。新国立競技場は、大規模空間であり、かつ、開閉式屋根が設定されていることから、天候にかかわらず多数の人が避難できるメリットもあります。さらに、新宿、渋谷などのターミナル駅からも、災害時の徒歩によるアクセスが比較的容易な立地にあるため、今後、首都直下型地震帰宅困難者等対策協議会最終報告等の関連規定に示されている「一時滞在施設」「避難所」等の位置づけを自治体と相談しながら決定し、災害時対応の方針等を作成していくこととしています。

#### 貴会質問事項の6

8万人収容のスタジアムがオリンピック後、どのように有効活用されるのか、見通しが明らかでないこと。人口が縮小に向かう今日、建物の運営やメンテナンスを含め、未来世代へ巨大なツケにならないでしょうか？毎年のランニングコストの試算をお示しください。

#### ◆本センターのお答

新国立競技場の収支見込み（ランニングコスト）については、今後、設計段階で詳細に検討することとなります。現時点の収入見込みは、企業賃貸スペース（パートナー収入）、会員シート・迎賓、興行事業、コンベンション事業、フィットネス事業、物販・飲食（イベント時）事業などにより、収入を約45.5億円程度と考えています。

また、支出においては、41.5億円程度見込んでおり、収支計画としては、年間約4億円程度の利益が出ると試算していますが、現在は、これらの試算について、第三者の専門機関に審査を依頼しているところです。

今後とも、維持管理費を少なくするような施設計画や、できる限り収益をあげることができるような事業計画を検討し、効率的な運営に努めるよう検討していくこととしています。

#### 貴会質問事項の7

また日本スポーツ振興センターは、2010年度に現在の国立競技場を補強・改修して使い続けることを検討し、久米設計に調査を委託したところ、700億円という試算が出たと報道されています。この内容の公開をぜひともお願ひいたします。また、当該改修案と今回の新設案の比較において、需要予測・採算性・B/Cの試算等の審議結果、検討結果を公表してください。

## ◆本センターのお答

お問合せの件につきましては、「国立霞ヶ丘競技場陸上競技場耐震改修基本計画」として、平成23年度に行ったものです。本調査は、現行法の耐震基準を満たす既存建物の耐震補強とともに、将来に向けた国立競技場のあり方を考慮し、施設の老朽化の状況、効率的な施設の運営、利用者の安全確保及び高齢者・身体障害者等に配慮した施設の改善を図る耐震改修の基本計画を目的に実施したもので、以下の点を留意の上、策定したものです。

### 基本計画策定の留意点

- ・既存建物の耐震改修
- ・老朽化した設備の更新
- ・バリアフリー対応及びサイン計画
- ・建築面積は現状と同等
- ・明治公園（西側・四季の庭）を一体敷地
- ・スタンド座席数7万人以上を確保
- ・客席部屋根（スタンド部全体）の設置

その結果、このような改修工事を行った場合の工事費（本体のみ）として、約777億円と試算されたところです。しかしながら一方で、現国立競技場は、敷地東側都道上空において、約130mの範囲で突出しており、東京都から既存不適格との指導を受けていること、また、陸上競技においては世界標準となっている9レーンへの改修ができないことをはじめ、今後大規模な国際競技大会の誘致・開催を視野に入れた場合、収容人員規模増大への更なる要望や国際基準による競技への必要な機能が満たされていません。あわせて、利便性・快適性についても高水準での提供等が望まれ、改修にとどまらず施設全体の建て替えを視野にいれた抜本的な見直しが必要であると報告されたところです。なお、当該計画と新国立競技場を比較した需要予測、採算性・B/Cの試算等については実施しておりませんので、審議結果、検討結果についてはご提示できません。

### （参考）

#### ○当該基本計画における主な改修事項

- (1) 既存建物の耐震補強
- (2) 國際大会開催基準を満たす施設
- (3) エリア分け・レイアウト・動線見直し
- (4) スタンド座席数7万人以上を確保
- (5) 屋根の増設

- (6) 芝生面への日照・通風の確保
- (7) メインスタンドの建て替え
- (8) 電光掲示板更新および増設
- (9) 夜間照明塔の更新
- (10) 地下駐車場新設（400台程度）

